





1 住吉富士吉野図 瀧和亭・狩野永恵・野口幽谷 三幅

絹本着色 明治二十二年(一八八九)頃  
本紙各一七一・二×六八・五

歌枕として有名な三つの名所を、後に帝室技芸員に任命される三名の画家が合作した作品。明治二十二年の嘉仁親王(後の大正天皇)立太子の際に、宮内省侍医および武官一同より献上されたものである。中央は狩野永恵(二八一四〜一八九一)による富士図、右に瀧和亭(一八三〇〜一九〇二)の住吉図、左に野口幽谷(一八二七〜一八九八)の吉野図という構成の三幅対。永恵の描く富士は、室町から江戸にかけて定型化した、山頂を三つの突起で示す三峰型をとっている。ただ、富士の手前に描かれた小さな突起を宝永山(宝永四年の噴火によって富士山の斜面にできた噴火口)、さらにその前景の小振りの山を愛鷹山と解釈するならば(実際にこれらはほぼ直線上に並んでいる)、現実の富士の形状や地理を踏まえた描写を、伝統の型に組み合わせた興味深い試みといえるだろう。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 — 山を写し、山に想う —

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections